

チブの製作と関連儀礼の実施

アイヌ民族博物館は、(財)安田生命クオリティオブライフ文化財団の助成を得て、8月21日から9月30日まで、チブ(丸木舟)の製作およびチブサンケ(舟下ろしの儀式)等の関連儀礼を実施した。

本事業は、伝承者の指導のもとにアイヌの伝統的製作技法を伝習し、併せて関連儀礼を実施することにより、アイヌ文化の伝承および後継者の育成をはかることを目的とした。

当館では、過去にも6隻のチブを製作しているが、今回はとくに若手の育成と映像記録に重点を置いた。以下に事業の概要を紹介する。

指導：野本亀雄(白老町在住伝承者=78歳)

事業責任者・儀礼祭主：新井田幹夫(伝承課主任解説員)

製作：野本亀雄/新井田幹夫/牟田勝見(伝承課伝承係長)/熊野薫(同主任解説員)/岡田恵介(伝承課)/野本三治(同)/野本正博(元職員)

儀礼列席：野本亀雄/熊野末太郎(理事長)/山丸和幸(常務理事)/秋野茂樹(学芸課長)/中村宏(総務課長)/古仲滋己(総務係長)/以下、製作者と同じ/上河ハツエ・松永八重子(伝承課=イヨマレクル)

記録担当：飯塚晶子(学芸員)/安田益穂

記録方法：デジタルビデオカメラ(撮影時間5時間40分)
スチールカメラ(35mm/147カット)

原材：カツラ(径82cm×長620cm)樹齢80年(推定)

事業1. 製作前のカムイノミ

(8月21日/当館ポロチセ~連絡所横~ポロチセ)

チブの製作に先立ち、8月21日、ポロチセ内でカムイノミ(神への祈り)を行った。儀式では、最初にチブの製作開始を神々に告げるとともに、作業の無事を祈り、ついで神窓から出された御神酒と塩で舟材となるカツラの木を清め、再びポロチセに戻って儀式の終了を火の神へ報告した。途中、ベテラン職員から新入職員へ儀式の際の所作等についての指導も行われた。

事業2. チブの製作(8月21日~9月28日/連絡所横ポロト湖畔)

舟材は、他の地方ではヤチダモ、バツコヤナギ等さまざまな材が用いられたようだが、こと白老地方に関しては、野本亀雄氏によると「カツラ以外見たことも聞いたこともない」とのことである。当館で過去に製作したチブも、すべてカツラ材を使用している。

材の使い方は、立木の状態で北に面した部分(木目の詰まった方)を舟底とし、木の根元が艫(後部)になるように製作した。これも地

方によって、あるいは文献によって諸説あるところである。

本来チブの製作は一年を費やす気の長い作業である。野本亀雄氏によると、整形にあたっては「材を焼いて削りやすくして斧・チョウナ・モッタ・ノミだけで削る」と述べておられたが、製作期間が限られていたため、残念ながら今回はこの方法を試すことができなかった。工具には上記に加え、仕上げにはカンナ、大きな部分の整形にはチェーンソーも用いた。また、本来は木の性質に沿って木なりに形を造る場合が多く、過去に当館で製作したチブでは艫の湾曲が認められるが、今回は墨壺を用いて直線を出す等、今日的な工法も随所で用いた。実際の製作は、以下の日程で進んだ。

- 8月21~24日 樹皮をチョウナ・斧で落とす。
- ~28日 舳先・艫の外形をチョウナで削る。
- ~30日 外形の仕上げ(主にカンナ)。
- 31日 材を裏返し、舳先・艫以外の舟の上部を水平にカットする(チェーンソー使用)。
- ~9月6日 舟内を削る(チェーンソーで内部をブロック状に切り、ノミで取り去った後、チョウナで整形)。
- ~13日 舳・舳先・艫上部および舟内の整形。
- ~28日 舟を横にし、細部の仕上げ(カンナが中心)。
- 28日 舟を湖面に浮かべ、バランスをみる。今回は結果が良好で、修正不要。→完成

事業3. チブサンケ(9月30日/連絡所裏ポロト湖畔)

儀式に際して、湖畔のヌサ(幣棚)にトーコロカムイ(湖の神)、ワッカウシカムイ(水の神)、コタンコロカムイ(村の神)の3神(キケパラセイナウ=木幣の一種)がまつられ、チブの舳先にはチェホロカケブイナウ(=木幣の一種)が挿された。今回の儀式はチセ内では行わず、全て野外で実施したが、これは野本亀雄氏の指導による。また、野本氏によればチブサンケではイヨマレクル(酒を注ぐ人)は男性が務めるとのことであったが、今回は女性が担当した。

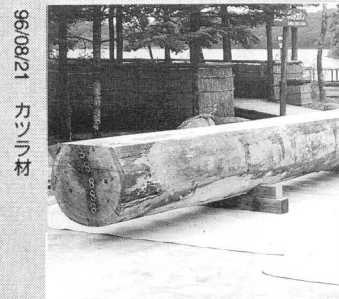
最初に全員でオンカミし、笹のタクサ(手草)でチブを破い、ついで全員にトウキ(杯)を配してイヨマレした後、祭主によるカムイノミが行われた。カムイノミでは、神々にニマムカムイ(舟の女神)が無事進水できるよう、また儀式が首尾よく終わられるよう祈りの言葉を捧げた。この間、他の列席者は舳先に挿したチェホロカケブイナウに、ついでヌサの3神に祈りを捧げた。

いよいよ2名が乗ったチブが湖に下ろされ、周辺を一周した後、儀式が無事に終わったことを告げる祈りを捧げ、チブサンケは終了した。

良材の入手難により事業開始が遅れ、晩夏の炎天下、日常業務の合間を縫って寸暇を惜しみ作業した製作担当者のご苦勞を思うとともに、ご高齢をおしてご指導下さった野本亀雄氏に深謝する次第である。

紙面の関係上、概略のみの紹介となったが、詳細はインターネット上にて報告する予定である。

(安田 益穂)



野本亀雄氏(指導担当伝承者)

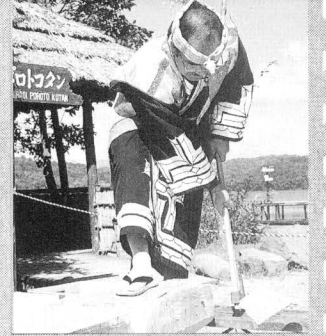
96/08/21 カツラ材

96/08/21 製作前のカムイノミ

96/08/21 表皮を落とす

96/08/24 舳先を削る

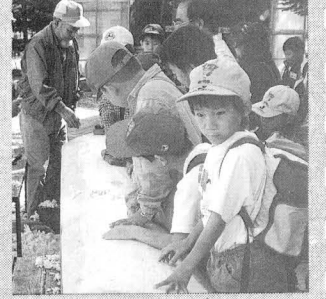
新井田幹夫(事業責任者)



96/09/08 舳の厚みを出す



96/09/28 入館者も体験



96/09/30 チブサンケカムイノミ



96/09/30 タクサで破る



96/09/30 ポロト湖に進水

